

診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/ganka/index.htm>

- 1) 眼科学の幅広い領域に対応できる診療体制を整えています。
- 2) より良い視機能を提供するために、最新の診療器機をそろえ、的確な診断と治療法の選択、そして治療手技の向上と開発を進めています。
- 3) 広い視野をもった臨床・基礎研究を行い、一流英文雑誌に多数掲載されています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
飯田 知弘

新潟大学医学部卒業
臨床専門分野

- 1) 黄斑疾患(加齢黄斑変性など)
- 2) 網膜硝子体疾患

研究分野

- 1) 黄斑疾患、網膜硝子体疾患の病態解明と治療法の開発

学会活動

- 1) 日本眼科学会評議員
- 2) 日本網膜硝子体学会理事
- 3) 日本眼循環学会理事
- 4) 各種の国際学会会員。特に米国のMacula Society(権威ある黄斑疾患の学会で日本人会員は5名)の会員。
- 5) 日本眼科学会プログラム委員
- 6) 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)技術委員
- 7) 日本抗加齢医学会評議員



副部長(准教授)
石龍 鉄樹

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 網膜硝子体疾患の手術治療

研究分野

- 1) 網膜硝子体疾患の画像診断



助教 齋藤 公護

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 角膜疾患、白内障の治療

研究分野

- 1) 角膜疾患、白内障の臨床的研究



講師 古田 実

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 眼科領域腫瘍性疾患
- 2) 網膜硝子体疾患

研究分野

- 1) 眼部腫瘍
- 2) 眼窩壁骨折の治療成績の検討



助手 狩野麻里子

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 角膜、白内障

研究分野

- 1) 角膜疾患の診断と治療



講師 齋藤 昌晃

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 網膜硝子体

研究分野

- 1) 加齢黄斑変性



助手 板垣可奈子

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 緑内障

研究分野

- 1) 緑内障



講師 丸子 一郎

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 網膜硝子体一般

研究分野

黄斑疾患の画像診断



助手 伊勢 重之

聖マリアンナ医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 眼科一般

研究分野

- 1) 網膜疾患



助教 森 隆史

愛知医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 斜視・弱視の診断
- 2) 眼窩疾患、涙道疾患、眼腫瘍

研究分野

- 1) 斜視・弱視



助手 近藤 剛史

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 眼科一般

研究分野

- 1) 網膜疾患



助手 小島 彰

福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

1) 白内障

研究分野

1) 網膜硝子体疾患の画像診断



助手 野地 裕樹

聖マリアンナ医科大学卒業

臨床専門分野

1) 緑内障、白内障

研究分野

1) 緑内障

後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1 年次 (卒後3年)	眼科臨床に必要な基礎的知識を習得する。眼科手術助手200例以上、そのうち、外眼手術(麦粒腫・霰粒腫手術、内反症手術、斜視手術)およびレーザー手術、内眼手術(白内障手術)を執刀
2 年次	眼科手術執刀者、助手200例以上。外眼手術(麦粒腫・霰粒腫手術、内反症手術、斜視手術)およびレーザー手術、内眼手術(白内障手術)を執刀 ・一般の初期救急医療に関する技術の修得 ・眼科診断技術および検査の修得 ・眼科治療技術の修得 ・豚眼による白内障手術トレーニング 症例検討会、眼病理検討会、抄読会、各種学会等への出席。学会(集談会等を含む)報告を演者として1報以上発表。
3 年次	2年次に加えて眼科に関する論文を、単独または筆頭著者として1篇以上投稿。
4 年次	3年次に加えて眼科専門外来(角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正、弱視・斜視、神経眼科、眼窩・眼付属器)における診療の一員として眼科各専門分野のより深い知識と診断・治療を学ぶ。

大学院・留学について

- ・大学院に進んで臨床研究や基礎研究が可能
研究テーマ:「黄斑疾患・網膜硝子体疾患に関する画像診断、病態解明、治療の開拓」「眼内増殖、血管新生の機序」「眼科領域悪性腫瘍の病理」など
- ・留学(ニューヨーク、ヒューストン、フィラデルフィアなどの海外および国内)

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

専門医認定試験を受けるためには、認定研修施設において専門医制度規則施行細則で定められた4年以上の眼科臨床研修を行い、また、4年以上日本眼科学会会員であり、かつ受験時に日本眼科医会会員であることが必要です。

☆平成18年4月に日本眼科学会専門医制度規則において専門医の受験資格が一部変更になりました。変更点は以下のとおりです。

『後期研修4年間のうちの当初2年間において、専門医制度で承認された眼科研修プログラムのもと、大学附属病院あるいはそれに準ずる研修施設で1年間以上の研修を行うこと』が義務付けられました。これは平成17年以降の医師国家試験合格者が対象になります。

・症例数:手術については、執刀者、助手を合わせて総数

100例以上、そのうち、外眼手術、内眼手術、およびレーザー手術が、それぞれ執刀者として20例以上。

- ・必要となる要件:眼科に関する論文を、単独または筆頭著者として1篇以上、および学会(集談会等を含む)報告を演者として2報以上発表。

後期研修協力病院

卒後臨床研修協力病院	医師名	卒業年	
1 大原総合病院	鈴木 勝浩	S61卒	日本眼科学会専門医
2 北福島医療センター	山田 文子	H6卒	日本眼科学会専門医
3 保原中央クリニック	菊池 重幸	S51卒	日本眼科学会専門医
4 済生会福島総合病院	鈴木美佐子	S53卒	日本眼科学会専門医
5 太田総合病院付属 太田西/内病院	坂井 栄一	H11卒	日本眼科学会専門医
6 寿泉堂総合病院	神田 尚孝	S61卒	日本眼科学会専門医
7 星総合病院	平井 香織	S56卒	日本眼科学会専門医
8 竹田総合病院	室井 繁	S43卒	日本眼科学会専門医
9 白河厚生総合病院	荒木 聡	H3卒	日本眼科学会専門医
10 福島労災病院	鈴木 説子	H4卒	日本眼科学会専門医

指導医からのメッセージ

当院は、上述の眼科研修プログラム施行施設に認定されております。

- ・当講座では、日本眼科学会専門医制度の規定に従って、専門医資格取得の要件を満たすために、6つの専門領域(角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器)に、専門外来を担当する眼科専門医を眼科研修委員として配し、研修委員の指導の下、豊富な症例の中から定められた期間内に幅広い知識と高度な技量を習得することができます。加えて他科診療連携委員の指導により、全身疾患における他科と眼科領域の連携を図ることにより、眼科領域にとどまらない広い視野の獲得を目指します。当施設の定める研修カリキュラムに沿って、基礎知識の習得に始まり、検査・診察を通して疾患に対する考え方を養うことに重点を置き、加えて実技や手術トレーニングを数多く取り入れて眼科専門医に必要な技量の獲得を目指します。併せて学会発表、論文作成を通して高度な専門知識を身につける姿勢を養います。
- ・研修の初期には、眼科の基本診療に関するクルーズを設けており、これによって短期に基本的知識や手技を習得することができます。
- ・最新の診断器機や治療器械を備えており、手術件数も年間1000件を超え、豊富な症例から最先端の診断技術や治療を学ぶことができます。
- ・各学会で多数の演題を発表し、優れた研究は海外(主にアメリカ)の一流雑誌に多数掲載(American Journal of Ophthalmologyなど)されています。「優れた臨床能力を身につける一番の近道は研究をすることである」という考えから、研究に要する臨床データの活用や英語論文作成の際の専任スタッフによる支援など、研究に際してもよりよい環境を提供します。